



简明日本史教程

王雪松 编

【日】清水行健 何珍珍 校正



WUHAN UNIVERSITY PRESS

武汉大学出版社



简明日本史教程

王雪松 编

【日】清水行健 何珍珍 校正



WUHAN UNIVERSITY PRESS

武汉大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

简明日本史教程/王雪松编;清水行健(日),何珍珍校正. —武汉:武汉大学出版社,2008. 10

ISBN 978-7-307-06467-6

I. 简… II. ①王… ②清… ③何… III. 日本—历史—教材
IV. K313.0

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 122069 号

责任编辑:谢群英 责任校对:王 建 版式设计:马 佳

出版发行:武汉大学出版社 (430072 武昌 珞珈山)

(电子邮件:wdp4@whu.edu.cn 网址:www.wdp.whu.edu.cn)

印刷:湖北地矿印业有限公司

开本:787×1092 1/16 印张:16 字数:310千字

版次:2008年10月第1版 2008年10月第1次印刷

ISBN 978-7-307-06467-6/K·388 定价:25.00元

版权所有,不得翻印;凡购买我社的图书,如有缺页、倒页、脱页等质量问题,请与当地图书销售部门联系调换。



前 言

日本是中国一衣带水的邻邦。两国建交以后，特别是我国实行改革开放政策以来，两国的经贸往来、文化交流日趋频繁。谈到日本，很多人脑海中浮现的是日本的经济腾飞。日本这个二战后经济萧条、民生凋敝的战败国，经过数十年的努力拼搏一跃成为世界经济大国，人们对此惊叹不已，但对日本的山川风物、历史沿革、政治经济、文化教育、风土人情，人们了解的并不多。虽然日本不是拥有几千年历史的古国，更谈不上博大精深的国学文化，但日本独特的地理位置、自然环境和历史条件，都深深地影响着日本国人的心理。

历史是对以往社会生活的全面反映。认识一个国家、一个民族的有效途径就是阅读、研究其历史。

对于日语学习者来说，提高语学能力不能仅仅停留在单词、语法、句子结构上，还必须不断地加深对日本历史、民族文化和传统知识的了解。通过学习日本历史，不仅可以了解日本的发展进程和民族思想，也可以为进一步提高日语水平打下坚实的基础。

本教材着眼于日语专业本科生，根据本科生的教学时数和接受能力，编者从多本教材和参考书中精选浅显易懂、便于掌握的内容编撰成书，供日语专业本科生使用。

本教材特点如下：

1. 言简意赅、浅显易懂，对难读单词均标注了读音。
2. 在尊重史实的前提下，对多本教材和参考书中的大量史料进行了去繁就简、去粗取精的工作。

3. 以图文并茂的形式介绍重要历史事件及有关知识。
4. 附录中编有“年号一览表”以备查询，使学习者对日本历史的流程有较为清晰的认识。

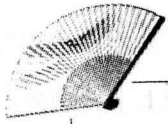
为使本教材严谨、地道，在三年多编撰过程中，编者邀请了日本友人吉田正先生、清水行健先生、中本洋先生、野田昭子女士、中国友人何珍珠女士对此书做了细致的审读，清水行健先生和何珍珠女士对此书进行了校对。在此向他们那种不为名利、默默奉献、全力支持中国日语教育事业的高尚精神表示深深的敬意和由衷的感谢。此外，武汉大学出版社为此书的出版给予了很多帮助，在此一并表示感谢。

考虑到本教材的特殊性，在编撰过程中参考了许多教材、辞典、参考书等，并引用了其中的部分内容，详见参考书目。在此，谨向那些教材、辞典、参考书的作者以及出版社表示衷心的感谢。

由于编者水平有限，谬误在所难免，敬请读者批评指正。

编者

2008年



歴史に親しもう

21世紀の世界が大きく揺れている。政治・経済の混迷、社会不安を引き起こす特異な事件の多発、民族紛争や深刻な分裂、新たな理想社会を目指す統合の動きなどが絡み合う複雑な世界情勢は、悠久の時の流れとどう関わるのであろうか。

真に理解するには、歴史を遡らなければならない。歴史は過去の事実の集積というだけではなく、日々新しい事実を積み重ね変化している。将来の展望を描くためには、史実と時代背景を正確に把握し、新しい知識を取り入れ、正しく歴史を理解する能力を身につけることが必要である。ますますグローバル化する今、一人でも多くの人々が歴史認識を深く、新しく知ることを迫られるのではないであろうか。

この教材は、日本語を勉強するに際して、併せて日本の文化、社会、自然など、日本の諸事情を日本語学習者に知ってもらいたいとの要望に応ずるために作成したのである。

この教材の編集にあたって、次のような諸点に注意をはらった。

- (1) 考古学の飛躍的發展をふまえ、その達成を反映させる。
- (2) 世界史とくにアジア史とのかかわりに注意する。また広い分野の利用者のために、文化・文学関係事項を充実させる。
- (3) 地震・飢餓など、災害関係事項に系統的に取り上げ、選択のバランスに注意する。
- (4) 覚えるべき、参考になる知識を整理し、豆知識に書き入れる。

(5) 日本史の流れを理解しやすいように、年号一覧表をつけている。

われわれは現代をより良く生きていけるよう努めたい。そしてそのための知恵を過去の歴史と文化の中に求めていきたい。日本の歴史をどのように読み解くのか。歴史の流れの中で根幹となる部分についての知識と理解力を高め、また、ふだんの生活の中で展開する日本の歴史と文化に絶えず興味と関心を持つことが必要であろう。

この教材をまとめるにあたって、友人の吉田正様・清水行健様・中本洋様・野田昭子様・何珍珍様からご指導・助言・校正を頂いた。方々に謝意を表す。また、歴史そのものの特殊性を考えて、数多くの教科書・参考書・辞書・史料から一部の内容を引用した。ここに引用・参考した教科書・参考書・辞書・史料の著/編者・出版社および「マイクロソフトエンカルタ総合大百科」に感謝申し上げます。

この教材は、日本語学習者の思考を深め、未来を拓く能力を伸ばすための一助となれば幸いである。

編者

2008年



緒言	1
1章 古代の日本	3
1 国土の形成	3
2 日本人の起源	5
2.1 人類の出現と分類	5
2.2 日本の洪積世人類及び日本人の祖先	6
3 文明の発生	7
3.1 石器時代	7
3.1.1 旧石器時代	7
3.1.2 中石器時代	8
3.1.3 新石器時代	8
豆知識 旧石器時代に土器が存在しない理由	9
3.2 縄文文化	9
3.2.1 縄文土器	9
3.2.2 縄文時代の経済・社会生活	11
3.3 弥生文化	15
3.3.1 弥生土器	15
3.3.2 弥生時代の経済・社会生活	16
3.3.3 階級の発生	19
4 国家の形成と大陸文化	20
4.1 小国の分立と邪馬台国	20
邪馬台国	20

4.2	大和朝廷の形成	20
	百済との交渉	21
4.3	古墳文化	22
	4.3.1 古墳の外形	22
	4.3.2 古墳がつけられなくなった理由	24
	4.3.3 古墳時代の生活文化	24
5	大陸文化の伝来	25
	5.1 渡来人	25
	豆知識 渡来人	25
	5.2 漢字の使用と儒教・仏教の伝来	26
6	古代国家の形成と文化の発展	26
	6.1 大和朝廷の動揺	26
	6.1.1 朝鮮諸国の動向	26
	6.1.2 聖徳太子の新政	26
	6.2 飛鳥文化	27
	6.2.1 寺院	27
	6.2.2 美術・工芸	28
	6.3 大化の改新	30
	6.4 律令国家の成立	30
	6.4.1 農民の負担体制	31
	6.4.2 平城遷都	31
	豆知識 平城京のようす	32
	6.5 奈良時代	33
	6.5.1 社会生活	33
	6.5.2 律令国家の変容	33
7	貴族の政治と文化	35
	7.1 荘園	35
	7.1.1 日本の荘園の現れ	35
	7.1.2 日本の荘園の歩み	36

7.2 国風文化	36
7.2.1 仮名文字の使用	37
7.2.2 貴族の生活	38
注釈	40
2章 中世の日本	45
1 武士の台頭	45
1.1 武士団の成立	45
1.2 武士の政界進出	45
1.2.1 桓武平氏の進出	45
1.2.2 清和源氏の進出	45
1.3 平安末期の文化	46
1.3.1 歴史書	46
1.3.2 文学書	46
1.3.3 民間芸能	46
1.4 平氏政権	47
1.4.1 平氏政権の経済的基盤	47
1.4.2 源氏の蜂起と平氏の滅亡	47
2 鎌倉幕府	49
2.1 鎌倉幕府の成立	49
2.1.1 幕府の経済的基盤	49
2.2 貴族と武士の二重政権	49
2.2.1 武士の荘園侵略	50
2.2.2 武士の生活	50
2.3 幕府新仏教	51
2.3.1 浄土宗	52
2.3.2 浄土真宗	53
2.3.3 時宗	53
2.3.4 臨濟宗	53

2.3.5	曹洞宗	53
2.3.6	法華宗	54
2.4	鎌倉文化	54
2.4.1	文学	54
2.4.2	美術	55
2.5	鎌倉幕府の滅亡	62
2.5.1	幕府の滅亡及びその理由	62
2.6	建武の新政	63
2.6.1	新政の内容	63
2.6.2	新政に対する不満と新政の崩壊	64
3	室町幕府	65
3.1	室町幕府の政治機構と財政基盤	65
3.2	日明貿易	65
3.2.1	貿易の形態	66
3.2.2	貿易の中断と再開	66
3.2.3	実権の変遷と貿易の終了	66
3.3	荘園の崩壊と農民の一揆	67
3.3.1	郷村制の成立	67
3.3.2	土一揆の発生	68
	豆知識 応仁の乱	69
3.4	戦国時代	71
3.4.1	戦国大名が出現の理由	72
3.4.2	戦国大名の領土支配	72
3.5	都市の発達	72
3.5.1	城下町	73
3.5.2	門前町	73
3.5.3	寺内町	74
3.5.4	港町	75
3.5.5	宿場町	75

3.6 動乱期の経済と文化	77
3.6.1 経済	77
3.6.2 文化	77
豆知識 一寸法師	82
能面	83
面	86
注釈	88

3章 近世の日本 99

1 ヨーロッパ人の来航と全国統一	99
1.1 鉄砲の伝来	99
1.2 南蛮貿易	100
1.3 キリスト教の伝来	101
2 織田信長・豊臣秀吉による統一事業	101
2.1 織田信長の天下統一	101
2.2 豊臣秀吉の天下統一	102
2.3 朱印船貿易・キリスト教禁止・朝鮮への出兵	103
3 江戸幕府の成立と鎖国	104
3.1 関ヶ原の戦い	104
豆知識 関ヶ原の戦い	104
3.2 江戸幕府の成立と支配の仕組み	106
3.2.1 大名の統制	107
3.2.2 農民の税負担	109
4 封建的秩序	110
4.1 身分制度	110
4.2 初期の外交	111
4.2.1 オランダ・イギリス・ポルトガルとの貿易	111
4.2.2 メキシコへの貿易要請	111
4.2.3 イスパニア・朝鮮・中国・琉球との関係	112

4.3	朱印船貿易	112
4.3.1	朱印船	112
4.3.2	朱印船渡航先と交易品目	113
4.3.3	朱印船貿易家と乗組員	114
4.3.4	朱印船貿易の終末	115
5	貿易の振興から鎖国へ	115
5.1	禁教令と貿易の制限	115
5.2	島原の乱と鎖国	116
6	諸産業の発達	117
6.1	農業技術の進歩	117
6.1.1	農具の改良・発明	117
6.1.2	用水路や溜池の建設及び灌漑・揚水具の普及	118
6.1.3	金肥の使用と商品作物の栽培	119
6.1.4	経済の浸透と農村の階層分化	121
6.2	水産業の発達	122
6.2.1	漁法の進歩	122
6.2.2	海産物と俵物	122
6.3	鉱工業の発達	123
6.3.1	鉱業	123
6.3.2	工業	123
6.4	交通の発達	124
6.4.1	陸上交通	124
6.4.2	海上・河川交通	125
6.5	商業の発達	126
6.6	都市の発達	127
7	文化の振興	127
7.1	元禄文化	127
7.2	寺子屋	129
	注釈	130

4章 封建社会の動揺と日本の近代化	138
1 武士の窮乏と農村の分解	138
2 化政改革と化政文化	138
2.1 諸藩改革	138
2.2 化政文化	139
3 開国	140
3.1 外国船の来航と通商条約	140
3.2 開国の影響	141
3.2.1 物価の騰貴・金貨の流出・市場の混乱	141
3.2.2 尊王攘夷運動から討幕へ	141
4 明治維新	142
4.1 王政復古	142
4.2 新政府の施政方針	143
4.2.1 廃藩置県	143
4.2.2 新しい身分制の成立	143
4.2.3 徴兵令	144
4.2.4 地租改正と殖産興業	144
4.2.5 西洋文化の摂取と教育制度	145
5 立憲主義から帝国主義へ	147
5.1 明治憲法	147
5.2 帝国議会	148
6 対外戦争と産業革命	149
6.1 条約改正	149
6.2 甲午中日戦争	150
6.3 日露戦争	151
6.4 産業革命と社会問題	153
7 日本の帝国主義	154
7.1 日露戦争後の日本	154
7.2 社会運動の展開	154

8	近代文化の形成	155
8.1	教育の国家主義化	155
8.2	学問の発達	156
8.3	明治の文学	157
8.4	芸術	159
8.4.1	美術	159
8.4.2	彫刻と建築	160
8.4.3	音楽	161
8.4.4	新派劇・新劇	161
	注釈	163

5章 二度の世界大戦と日本

1	第1次世界大戦と日本	179
1.1	経済の繁栄	179
	豆知識 二十一ヵ条要求の内容	180
1.2	米騒動	182
1.3	政党政治の成立	183
1.4	大戦後の不況	183
1.5	大正期の文化	184
1.5.1	教育	184
1.5.2	学問	184
1.5.3	文学	185
1.5.4	美術	186
1.5.5	彫刻	187
2	世界恐慌と日本の中国侵略	187
2.1	「満州事件」と「満州国」	187
2.2	中日戦争	188
2.3	戦争の長期化	189
2.4	日本軍の降伏	189

3	第2次世界大戦とアジア	190
3.1	太平洋戦争	190
3.2	第2次世界大戦の原因	191
3.3	第2次世界大戦の終結と日本の敗戦	192
	注釈	195
6章	現代の日本と世界	214
1	日本の民主化と国際社会への復帰	214
1.1	現代日本の出発	214
	豆知識 広島・長崎に原子爆弾投下	215
1.2	占領管理の方針	215
1.3	民主化の諸政策	216
1.3.1	戦犯裁判	216
1.3.2	五大改革指令	216
1.3.3	「人間宣言」・日本国憲法	217
1.3.4	農地改革・経済安定九原則	217
1.3.5	教育の民主化	218
2	二つの世界とアジア	219
2.1	国際連合と冷戦	219
2.2	二大陣営の対立とアジア	219
2.3	国際社会への復帰	219
2.3.1	占領と民主化	220
2.3.2	平和条約と国連加盟	221
	豆知識 安保全文	221
2.4	高度経済成長のなかの日本	223
2.4.1	高度経済成長と問題	224
2.4.2	日米関係と沖縄の復帰	225
2.4.3	アジア諸国との関係	225
2.5	近代の日本と世界	225

2.5.1	バブル経済と平成不況	226
2.5.2	緊張緩和と冷戦後の世界	226
2.6	21世紀の日本と世界	227
2.6.1	民主化の課題	227
2.6.2	世界の一体化と日本の役割	227
注釈		229
付録	年号一覧表	234
参考文献		237